



文月 齊 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

83

「いずれは銀河のターミナル?」

前略、変わりはないか？
 9月に入り、街からは旅人の姿がだいぶ少なくなったね。こちら函館の小中学校は、君が暮らす町よりも10日ほど早く夏休みが終わるせいもあるけど、すっかり新学期モードの雰囲気満ちているよ。もつとも、夏休みといえど学生の頃、JRの普通列車が乗り放題となる「青春18きっぷ」を使って旅をするのが定番だったこともあって、きっぷの有効期限である9月10日が夏休みの最終日という感覚があるんだ。つまり、あと10日ほど夏休みが続く感覚がまだにあつてね、長かった夏休みが終わってしまうというあのなんとも言えない寂しさや切ない感覚を思い出しているよ。
 今のようにインターネットなんてなかった時代でね、一日でどこまで遠くに行けるのか時刻表を駆使してルートを模索し、途中で同じようなことをしている旅人と出会うとなんだか妙に嬉しくて、電車の待ち時間中ずっと話をしていたり、相手の旅の計画に便乗したりして旅の情報を集めていたっけ。
 普通列車しか乗ることのできない切符だけど、特急列車に乗れる区間があることを教えてくれたのも旅先で出会った同志だった。北海道新幹線が開業する前まで、青森駅と函館駅の間を「白鳥」と「スーパー白鳥」という特急列車が走っていて、普通列車の走っていない青森側の蟹田駅と北海道側の木古内駅の区間のみ、特例として青春18きっぷで乗ることができたんだ。
 確かに切符の案内にもそのようなことが書いてあるんだけど、初めて乗る時には本当に大丈夫かなってドキドキしていたものだよ。我ながら小心者で、ついには車掌さんに声をかけて、この切符で乗っていて本当によいかなんて、自白しちゃったもんね。「大丈夫ですよ」と笑顔で答えてくれた上に、以前君への手紙で書いた木古内駅前の駅前飯店「急行」を覚えてくれたのも車掌さんだったなあ。
 あの時教わった「急行」も、昨年、お店を切り盛りしていた母さんが急逝して今では姿を消してしまったけど、実はあのお店の名物だった「名代やきそば」の味を引き継ぐお店が今年の5月、JR函館駅前の朝市の一角に誕生したんだ。
 お店の名前は「超特急やきそば」。今はなき江差線と松前線のターミナルだった木古内駅に、いつかは急行列車が停車するようにと名付けられた店名の「急行」。その思いが叶い、今では新幹線が停車する駅にまでなったことにあやかっただけの命名は、木古内町の出身で、子供の頃から名代やきそばを食べ続けて大きくなった店主によるもの。和食からフレンチのフルコースまでこなす店主が試行錯誤で再現したというその味は、まさにあの急行の母さんが作るやきそばと同じ味だったよ。
 よくぞこの味を再現してくれましたね！
 会計の際に声をかけると、後ろにいた白髪のお客さんが「まったく同意です！」と会話に加わってしばし立ち話。話も弾み、なんだか青春18きっぷで旅をしているような錯覚を覚えたよ。
 急行が超特急に進化した木古内名物のやきそば。超特急の次はウルトラ超特急？いや、宇宙を駆ける銀河鉄道かな。
 え、それなら私も乗ってみたい？ そうだね、お持ち帰り用のやきそば弁当を持って、夜空の星になって見守ってくれている急行の母さんに届けてあげよう。
 それじゃあまた。

